

湯沢CS通信

令和7年2月25日第79号

(発行) 湯沢市教育委員会
学校教育課 CS担当

今年度の活動を振り返って

それぞれの学校で今年度最後の学校運営協議会が開催され、今年度の成果と課題を確認されたことと思いますが、CSディレクターの立場で今年度の取組を振り返ってみます。

△今年度の取組のよかったこと(成果として)▽

◎目指す子どもの姿を確認したり、学校(地域)の課題解決に向けてアイディアを出し合ったりする熟議を行う学校が増えていること

今年度行われた熟議(テーマと参加者)

テーマ「地域の未来を担う子どもたちに地域と保護者ができること」

参加者 委員、教員、PTA役員、地域住民、六年児童

テーマ「地域で目指す子ども像と学校と保護者・地域が連携協働していくには」

参加者 委員、教員、PTA役員、主任児童委員

テーマ「ふるさと湯沢 次の150年」

参加者 委員、PTA役員、教員、六年児童全員

テーマ「未来の『ふるさと湯沢』を考えよう」

参加者 委員、地域住民、教職員、生徒



テーマ「紅葉まつり・皆瀬小学習発表会・皆中祭の今後について」
参加者 委員、教員

テーマ「これからのいなかを活性化するにはどうしたらよいか」
参加者 委員、教員、生徒

テーマ「山田のよさを生かしながら、地域を元気にするために学校ができることは何だろう」
参加者 委員、職員、保護者、地域住民、主任児童委員、民生児童委員、生徒

◎学校の課題解決や地域の活性化に向けて学校運営協議会委員が主体的に活動する学校が増えていること

学校運営協議会の中にプロジェクトチームをつくったり、委員が自分の立場や職場を生かして学校(地域)の課題解決に向けて活動しています。

◎教員や学校運営協議会委員のCSに対する周知が進んだこと

CS研修会に向けて事前に校内研修会で自校のCSの取組について確認したり、学校運営協議会に教員が参加したりする取組があり、特に教員への周知が進んできました。

△本市のCSをさらに一歩進めるために(課題として)▽

- ・CSにおいて、PDCAサイクルを機能させること
- ・CSと地域学校協働活動を一体的に推進すること
- ・保護者や地域住民に対してCSの周知を図ること



地域の中で子どもを育てるために

湯沢市立湯沢東小学校長 寺田 玲子

「地域とともにある学校づくり」を「みんなで」進め、地域の中で子どもを育てるために、学校運営協議会・保護者・地域・学校職員が「連携・協働」することが大切であると考え、つながりづくりを進めてきました。

今年度は熟議のテーマを「地域で目指す子ども像」「学校と地域・保護者が連携協働していくには」と設定しました。一回目は学校運営協議会委員で、二回目は委員・職員・民生児童委員・PTA役員で、三回目は地域代表の自治会長と委員とで話し合いました。参加者同士でこんな子どもに育てたいという思いを共有し、その実現のための具体的なアイデアを出し合えたことは、大変貴重な機会だったと思います。

これまでの熟議を受けて実現してきたことは、登校時の校門前の安全確保、あいさつ運動の継続、地域の行事やお祭りの学校一斉メーリングルでのお知らせ、各地区センターで子どもの作品を展示するミニ美術館、公園祭りへの児童・PTA・学校運営協議会の参加等です。少しずつですが、地域とつながってきていることを感じています。また、熟議等を通して参加者同士もつながり、CSへの理解と参画意識の高まりも感じます。

熟議のアイデアを実行に移すためには、今後、参加者がそれぞれの立場でできることから実践していけるような仕組み作りが大切だと思います。地域学校協働活動推進員との連携により、さらに地域とつながっていかれたらと期待しています。



「地域とともに在る学校」となるために

湯沢市立稲川小学校長 佐藤 俊介

令和四年四月の本校開校とともに新しく発足した学校運営協議会の船出は、とても難しかったことを覚えている。とにかく課題が山積しており、何から手をつけたらよいのかわからない状態だった。また、委員の方々も自分たちの役割に確信がもてず、その存在意義について確認するところから始めなければならぬ状態だった。誰もが協議会の方向はわかっているのだが、どうやってそこに進んでいけばよいのか誰一人自信をもつて言えない状態だったように思う。そんなときに、CSディレクターのご指導、ご支援がとてもありがたかった。

あれから三年、着実に本校の学校運営協議会は自らの役割を理解し、考えるべきことや成すべきことに主体的に取り組もうとする集団になってきている。十二月の第三回学校運営協議会では、委員の皆さんから学校のためにもっと運営協議会に相談や提案をして、機能させてほしいと話があった。本当にありがたい言葉と感じるとともに、学校と地域の垣根がなくなってきたことを実感した。稲川小学校の校風は「地域とともに在る学校」である。これはまだ標榜をし始めたに過ぎない。今後の、本校学校運営協議会の活躍により、それがしっかりと定着していくことを期待してやまない。

